

もりおか mirai おでかけミーティング実施報告書

開催日時	令和4年11月17日（木）午後6時～ 午後7時40分			
開催場所	岩手県立大学 共通講義棟 307 講義室			
出席者	長岡利明	大谷陽介	田山俊悦	野中靖志
	村上貢一	中野孝之助	加藤麻衣	竹花せい子
	太田隆司	藤澤由蔵	天沼久純	池野直友
	庄子春治	神部伸也		
	岩手県立大学学生 12 人			

【開催内容】

大谷陽介議員及び太田隆司議員の司会進行により、村上副議長の挨拶の後、ワールドカフェ方式による「盛岡市の20年後の未来」をテーマに、下記の3項目を題目にして意見交換を行った。

- ① 盛岡市の「誇り」に思うこと、「残念」に思うことは何ですか。
- ② 20年後、盛岡市のどんな未来を実現したいと願っていますか。
- ③ 盛岡市の20年後のありたい未来を実現するために、一步踏み出して議会と大学生が一緒に取り組みたいことは何ですか。

○意見交換の中で出された意見や感想

【参加学生】

- ・個性があって魅力のあるまちづくりに参画する。
- ・健康で住みよい街。
- ・盛岡市の魅力（観光地など）を身の回りのツールでPRしてみる。
- ・盛岡について、もっと知ることができる機会に参加してみる。
- ・盛岡市のボランティア活動に積極的に参加する。
- ・盛岡市の飲食店を制覇。
- ・社会人陸上競技選手として練習に励む。
- ・自治体主催のワークショップや意見交換会に積極的に参加する。

- ・新聞、ニュースにたくさん触れる。
- ・今回のような意見交換会に参加して色々な意見をきく。
- ・参加してくれる学生がもっと増えるようにサークル活動の中で取り組んでいく。
- ・政治カフェ（大学生と議員が飲食をともにする場）を設け、出会いの場をつくっていく。
- ・「県大 Voters」という団体に活動しているので、ぜひチェックしてほしい。
- ・盛岡について調べる。
- ・大学生との意見交換の充実。
- ・協働体制の充実。
- ・政治カフェの実現。
- ・大学生との連携強化。
- ・情報を仕入れて現状を把握する。
- ・街の人と交流をして人脈を作る。
- ・議員と交流をする。
- ・少しでも知識を増やす。
- ・議員と積極的に関わり、意見交換したい。
- ・社会のことを勉強して、若年層の意見を届けていきたい。
- ・視察に同行して知識をつけたい。
- ・学生と議員がお互いのことを知る機会。→食事会、討論会、ワークショップ、仕事見学。
- ・議員になった理由など、キャリアについて話す場。
- ・自分自身が市政をより知ろうとする努力。→議会を見る、議事録を読む。
- ・議員の仕事内容などを知るため、インターンに参加。
- ・議員との交流会などでの意見交換。
- ・自分が気になる社会問題の当事者に思い切って話を聞きに行く。→自分が政治に参加するということの第一歩。人が本当に何に困っているかを知る。
- ・ためらわないで思ったことを話す。
- ・「知識」は絶対に必要だと思う。今の環境で可能な限りもっと力を入れて学びたい。
- ・今日出た意見は忘れない。
- ・目の前の課題を拾い続ける。
- ・課題を見つけ続ける。→目安箱やアンケート
- ・自分が議員になれるような一歩を踏みしめていく。
- ・課題、問題を見つけるため、盛岡市に関心を持つ。
- ・継続的なミーティング
- ・少し先の未来を考える。
- ・住みやすくなる工夫をする。

- ・今後も「もり mira」を楽しみながら一緒にできるといい。
- ・自助グループ（自分の今を語り、お互いを理解する）のようなのもあればいい。
- ・学祭で議員を交えたPRブースがあるとよい。
- ・学部で政策提言し、話し合う場があるとよい。

【参加議員】

- ・共通している意見は「くらしやすいまち」。
- ・どの年代でも安心して生きることができる、安心して子育てができる、周辺部でも移動できる交通手段、旅行に行きたいまち、行ってみたいと思われるまち、災害に強いまちなどが出された。
- ・さらに深めていくためには、議員と学生とのミーティング機会があればよいと感じた。
- ・人が集まるまちとするため、盛岡の魅力を発信する。その際、苦手なSNSにも挑戦する。
- ・魅力の掘り起こしを行っていきたい。
- ・若い方々が元気で、高齢者にやさしい街。
- ・ボケないように生き残るため、運動を忘れずにがんばる。健康第一。
- ・学生と一緒にゼミに参加し、仲良くしたい。
- ・学生と一緒に視察に行きたい。
- ・若手市職員と議員の交流の場をつくる。→新しい切り口が見えるかも。
→活力のある街もりおかを持続的に発展させる魔法。
- ・県大 Voters とそれぞれの“やりたいこと”を共有する機会をつくる。
- ・若い世代の方々の率直な声をきく。
- ・出来る限り歩く。自転車で動く。
- ・いわて盛岡シティマラソンに出られるような身体づくり。
- ・議員に学生枠と高齢者枠を設ける。それぞれの年齢により発想が違うので、市政に反映できる。
- ・関心を持って物事に取り組む。
- ・自分の幸せと同じくらい、みんなの幸せを考え、求めていくこと。
- ・学生の力を信じ、頼りにして課題解決に向かう。
- ・課題、直したい、こうしたいことを明らかにすること。
- ・協力し合うこと。（共同、協働、協力、共助）

○学生アンケート自由記載欄

- ・議員の方が、懸命に盛岡をより良くするために活動していることがわかり、感動しまし

た。来てよかったです。とても有意義でした。

- ・ 次回は、茶菓子を食べながら意見交換をしたい。
- ・ 今回は、もう少しかっちりとした議論もしてみたい。

○参加議員の所感

【参加しての所感】

- ・ 若い世代の方々と語り合えることは大変に素晴らしい。ありがたい事です。
- ・ 最初3人の学生と、途中移動で計6人の学生と交流できたが、それぞれ自分の考えをしっかり持ち未来を語っていたことに感銘した。
- ・ 久しぶり若い学生と話げできたことが楽しかったです。
- ・ 久しぶりに大学生のフレッシュな感覚に触れてよかった。
- ・ 初めての参加でしたが、若い方々と話し合えて、年代により考え方の違いが分かった。継続を希望。
- ・ まずもって、学業が忙しい中にもかかわらず参加して頂いた学生の向学心、その積極性が嬉しく、頼もしく、感銘さえ覚えました。IT活用の情報化社会において、コロナ禍故にオンライン会議等も一層普及していますが、リアルで向き合い意見交換することは大変に意義深いと実感しました。議会改革の最重要課題として位置付けられるのではないのでしょうか。また、発展的に対象を拡大し、小学校や中学校へも「おでかけ」し、世代に合わせた興味関心あるテーマで取り組みも検討の価値ありと思いました。
- ・ 一緒に盛岡市の魅力や将来について考えることができ、大変有意義な時間を過ごせた。話し始めると時間があっという間という感じだった。最初はお互い緊張していたが、色々話していくうちに打ち解けた感じだった。
- ・ 学生と交流する機会は少ないが、他の議員たちと一緒に交流する機会は貴重と感じた。

【意見交換の内容やテーマについての所感】

- ・ 盛岡の今や未来を語ることはもちろんそうですが、県大の学生が皆、盛岡に暮らしているわけではないので、その点をもう少し工夫しないといけない。
- ・ 積極的に身近な生活から20年後を語っていた。交通の便について、ショッピングの仕方について、そして子育て、高齢化社会についてなど具体性があったとてもよかった。
- ・ テーマは良いのではないのでしょうか。想像力が掻き立てられるテーマが良いですね。
- ・ テーマを当日示されたので、考える時間が少なかった。事前に学生や議員に示していれば、もっと多くの意見が出たのでは。
- ・ 議会ファシリテーターさん、お疲れ様でした。始めのアイスブレイクから雰囲気づくりが上手で感心しました。意見交換の内容もテーマも良かったと思います。

- ・最初のテーマ「盛岡市の誇りと残念なところ」について、全員が他都市から来た学生だったが、私が知らない観光スポットも含めて、いっぱい出してくれた。また、「20年後の盛岡市」について、「子育てしやすいまち」をあげる学生が多くいたことが印象的だった。
- ・内容やテーマを刷新してもいいかもしれないと思った。ワールドカフェ以外にも様々な進め方、やり方があると思う。どのような結果を作りたいかで選択しなおすのはどうか。

【意見交換の中で出された意見についての所感】

- ・誰もが暮らしやすい、やさしい盛岡をつくっていく！という考えの学生がほとんど。感動しました。
- ・年代の違いの中で交流ができ、「なるほど」と思うところが多くあった。
- ・「情熱の共有」というワードが心に残りました。学生と議員の意見交流は理屈だけではない部分がありますね。新しいことへの情熱が必要で、あらためてそのことを思い出され、気づかされました。
- ・環境や食べ物などのいいところを大切に、住みたくなるような盛岡を創造することをあらためて実感した。県外や市外からの学生意見を直接聞くことができた。
- ・議員選挙の際、「学生枠」、「高齢者枠」を設けてはとの意見があり、面白い考えだと感じた。
- ・盛岡市の魅力について、SNS（youtube やTikTok など）を使ってもっと発信してみてもという提起はその通りだと思ったし、今回のような意見交換の場を年1回だけでなく複数回行った方がいいという提起もあり、学生にとっても大変よい企画だったのではないかと感じた。
- ・高齢者も楽しめるテーマパークのような居場所づくりというアイデアが面白かった。そこにそれぞれの意見を重ねていった過程も有意義だった。